

提案者

活用技術

広島県

AI・IoT、自動運転、ロボット、キャッシュレス・ブロックチェーン

■ 背景・課題

目指す
将来像

- 首都圏のIT企業や革新的な技術を持つベンチャー企業等と、県内のものづくりをはじめとする企業や大学等が共創による課題解決に取り組むオープンな実証の場「ひろしまサンドボックス」を構築することで、多様な企業や人材を広島県内に集積させる

解決すべき
課題

- 一人あたりの付加価値額について、広島県では平成24年に452万円(全国平均493万円)と、ものづくり産業が集積しているものの付加価値額が高いとは言えず、生産性の向上が課題となっている

■ 実装を目指す主な事業内容

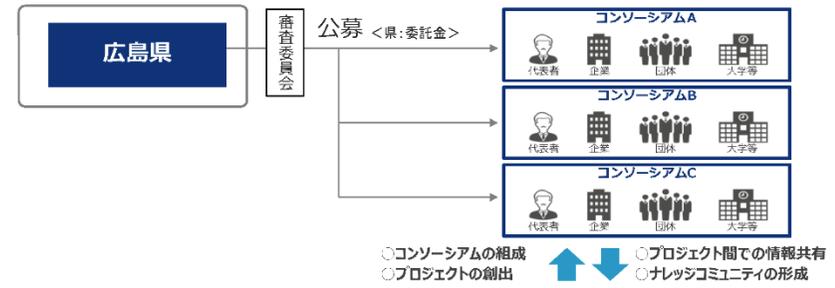
○事業: つながる中小製造業でスマートものづくり

活用技術

事業概要

AI・IoT

- 企業内及び取引先との間で利用できる情報連携ツールを導入して、データを一元管理しクラウド上でシェアリングする
- 前工程・後工程を見える化するとともに、生産フローをモデル化し、生産管理スケジュールの作成に、AI最適化アルゴリズムを組み込むなど、事前のシミュレーションを行う



ひろしまサンドボックス推進協議会

○機能：企業に対する知見及び技術支援、企業間の情報交換・マッチング
○参加組織： パートナー（通信事業者等）/ アドバイザ（ITベンチャー等）/ 賛同企業 / 大学等

「ひろしまサンドボックス」の実施体制

○事業: 島しょ部傾斜地農業に向けたAI/IoT導入

活用技術

事業概要

AI・IoT
ロボット

- 農業（環境、生産プロセス）のデジタル化により、1人当たりの耕作可能面積の拡大を目指す。さらに、農業の現場にロボットやドローンを複合的に活用するなど、生産性の向上を目指す



スマートものづくりで使用する
デバイスのイメージ



島しょ部傾斜地農業で
使用するデバイスのイメージ